

公共交通機関対策等特別委員会
令和4年2月2日
道路・交通計画部交通政策課

公共交通不便地域対策（砧モデル地区）について

1. 主 旨

新たな公共交通不便地域対策の導入に向け砧モデル地区においては、ワゴン車両を活用した定時定路線型コミュニティ交通の検討に、これまで取り組んできたところである。一方、ワゴン車での運行は、乗車人員が限定されるため、運行経費の大半を公費負担しなければ成り立たないため、様々な視点から採算性確保に努める必要がある。併せてコロナ禍により、高齢者の外出促進によるフレイル予防効果や地域で暮らせる居場所づくりに寄与する移動支援サービスの提供等がより求められている。

こうしたことから、他の運行形態として、令和4年度に新たにデマンド型交通の需要予測アンケート調査及び分析を行い、地域の需要に応じた運行形態等の取組みを検討する。

2. 砧モデル地区における主な経過と課題

(1) 経 過

地区の特性として狭あい道路が多いことから、交通管理者とも協議や現場実査をこれまで重ね、ワゴン車両を活用した取組みで検討を進めてきた。

令和2年度には、地域と取りまとめた運行概要をもとに、定時定路線型コミュニティ交通の需要予測アンケート調査を実施し、一定の需要（収支率30%以上）が確認出来たものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、実証運行を実施できない状況が続いている。

(2) 課 題

ワゴン車両は乗車人員が限定されるため、運行経費の大半を公費負担しなければ事業が成り立たない状況である。また、定時定路線型の場合、運行ルートや時刻表が固定されるため、需要が集中する時間帯には乗客が乗り切れない可能性や、目的地がルートから離れている場合に利用しにくいなどの課題がある。さらに、歩車道分離がされていない通学路の運行は安全対策上課題があるとし、一部運休時間帯がある。

3. デマンド型交通について

利用者の予約に応じた運行時刻・運行経路により車両を配車するデマンド型交通は、近年、AIを活用した配車システムの技術向上等もあり、定時定路線型が一般的であった都市部においてもデマンド型交通の実証運行が実施されるようになり、区内

では喜多見・宇奈根地区の路線バスにおいて、デマンド型交通を活用した運行形態の変更に向け、取組みが進んでいる。

定時定路線型に比べ、予約手続きやシステムの導入・維持管理経費等が別途必要となるものの、運行ルートや時刻表に縛られない輸送需要に応じた運行システムを構築でき、高齢者の外出促進によるフレイル予防効果や地域で暮らせる居場所づくりにも寄与する移動支援サービスとして期待できる。

4. 砧モデル地区における今後の進め方

デマンド型交通による乗降地点（ミーティングポイント）を効果的に配置することなどにより、収支の改善や利便性向上に繋がる可能性があることから、デマンド型交通を踏まえた需要予測アンケート調査及び分析を行い、定時定路線型と比較・分析を行うこととする。

(1) これまでの検討内容の継承

デマンド型交通の需要予測アンケート調査における想定乗降地点（ミーティングポイント）に、定時定路線型のバス停候補地を含め、これまで地域とともに検討した内容を活かした検討・分析とする。

(2) 実証運行に向けた考え方

コロナ禍の影響等も踏まえ、高齢者の外出促進やフレイル予防に繋がる移動支援サービスの視点を市内連携により検討するとともに、ワゴン車両は乗車人員が限定され、採算性向上が引き続き課題であることから、乗降地点（ミーティングポイント）の工夫により、サポーター支援などによる運賃外収入や事業者等との連携を目指し、今後の他地区への展開等を踏まえた運行支援のあり方について検討する。

5. 今後のスケジュール（案）

令和4年度：デマンド型交通の需要予測アンケート調査及び分析
：実証運行形態の決定
：実証運行開始に向けた各種調整、運行事業者の選定
令和5年度：実証運行実施予定